

平成27年度防衛大学校卒業式 学校長式辞

本日、防衛大学校本科第60期生、及び理工学研究科と総合安全保障研究科の前期課程と後期課程の諸君が所定の課程を修め、卒業のよき日を迎えました。

この中には、タイ、フィリピン、インドネシア、モンゴル、ベトナム、カンボジア、韓国、東ティモールからの留学生諸君も多数含まれています。留学生諸君が、防大卒業生としての誇りを胸に、将来、母国と日本との架け橋として活躍してくれることを心より期待しています。

防衛大学校の教職員を代表して、本日小原台を巣立つすべての卒業生諸君に対して、心から祝意を表したいと思えます。

「学生諸君、卒業、おめでとう！」

本日はまた、卒業生諸君を支え、見守ってこられたご家族・ご親族の皆様に対しまして、防衛大学校を代表して心よりお慶びを申し上げます。

この式典に際し、日本国の最高リーダーである安倍晋三内閣総理大臣、本校の卒業生でもある中谷元防衛大臣の御臨席を賜りました。これは防衛大学校だけに与えられた最大の榮譽であります。防衛大学校を代表して、衷心より御礼と感謝を申し上げます。

また、本日の卒業式には、数多くのご来賓の方々をお迎えすることができました。ここに本校を代表して、すべてのご来賓の皆様方に厚く御礼を申し上げます。私の友人でもある清家篤慶應義塾長には、後ほどご来賓を代表してご祝辞を賜ります。

本日の卒業式には、昭和48年（1973年）に防大を卒業された第17期の皆さんが、43年ぶりにホームカミングデーで参列されています。本日、ここに集われた防大卒業生の皆さんは、危機と隣り合わせのぎりぎりの場で、国の平和を守るという職務を全うされ、今日までの日本の安寧を支えてきました。

今日の日本の平和と繁栄は、第17期の皆さんをはじめとした自衛隊が、日常生活から見えないところで、地道にかつ誠実に任務を遂行された賜物であります。ミッションを無事にコンプリートされて、今日この小原台に凱旋された第17期の皆さんに盛大な拍手をお願いいたします。

さて、防衛大学校の存在意義とは何でありましょうか。それは一言で言えば、国と国民を守る最後の砦、自衛隊の幹部を養成するという明確な目的をもった日本でただ一つの最高学府だという点にあります。防大の役割を他の学校に代替してもらうことはできないのです。20年、30年後の日本の安全と平和は、本日この地を羽ばたく卒業生諸君の双肩にかかっているのです。

今日、我が国をめぐる近隣の安全保障環境は、年々、量的にもまた質的にも厳しさを増しており、自衛隊の活動範囲は広がり、かつ複雑なものとなりつつあります。

本日の卒業生諸君が自衛隊の中核となる20年、30年後の内外をめぐる情勢を想像することは容易ではありません。にもかかわらず、情勢の多様化と複雑化がさらに進むであろうことは容易に想像できます。その不確実な時代の自衛隊を担うのが、まさに本日卒業する諸君であります。

式辞の結びに、卒業生諸君に対して、学校長の最後の訓示として、次の三点を贈ります。

一、防大プライドを忘れるな

防大プライドとは何か。それは要するに、「紳士・淑女としての気品を胸に、真の勇者で

あると同時に、良き社会人たること」。「良き社会人」とは何か。それは、人のために生きることを最大の喜びであり、誇りとする人間であります。それが防大の建学の精神であり、小原台で学んだ者の生き様です。

二. 防大で培った友情と絆を忘れるな

榎智雄初代学校長は、学生舎生活を防大教育の基本の一つに捉えました。本来、collegeは学生全員が寮で共に暮らし、互いに切磋琢磨する中でcolleague（仲間）を作る学校を意味します。厳密に言えば、日本の大学にcollegeはほとんどありません。その意味で、防大は明確にcollegeなのです。ここで得た同期、先輩、後輩は一生の仲間であり、宝です。防大は世界でも珍しい陸海空がともに学ぶ士官学校であり、ここで培った絆が今後の自衛隊の統合運用の成否を握ります。

三. スケールの大きな自衛官になれ

防大卒の自衛官は必ず幹部になります。しかし大事なことは、肩書よりも人間的にスケールの大きな自衛官になることです。スケールの大きな自衛官とは何か。それは大きな志をもち、チャレンジする行動力があり、たえず部下を思い、知的でバランスのとれた自衛官であります。諸君たちは、それらの種子を防大生活の中で植え付けられたはずで、それを大きく育ててください。

結びに、改めて、

「卒業生諸君、卒業おめでとう！」

平成28年3月21日

防衛大学校長 國分 良成